

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	カナの家		
○保護者評価実施期間	令和7年1月14日		～ 令和7年2月7日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	22名	(回答者数) 12名
○従業者評価実施期間	令和7年1月14日		～ 令和7年2月7日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5名	(回答者数) 4名
○訪問先施設評価実施期間	令和7年1月14日		～ 令和7年2月7日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象者数)	20件	(回答者数) 11件
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年2月10日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	法人内に医療機関があり、連携がとりやすい。	訪問の前後で主治医や外来担当者と情報共有をしている。	よりスムーズな報告の方法を検討する。
2	理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・公認心理師など様々な職種の訪問支援員がいる。	訪問先での様子を確認し、最適と思われる職種が支援している。	他職種が参加した支援会議を定期的実施する。
3			

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	児童発達支援管理責任者と訪問支援員の情報共有や訪問先との連絡などに時間がかかる。	訪問支援員が医療機関との兼務でカナの家の専従の職員ではないため。	情報共有の方法を検討する。
2	法人の医療機関を受診していないカナの家児童発達支援利用児に対する訪問支援員への事前情報が少ない。	訪問支援員が医療機関との兼務でカナの家の専従の職員ではないため。	児童発達支援での様子を充分確認できるような業務体制を検討する。
3			